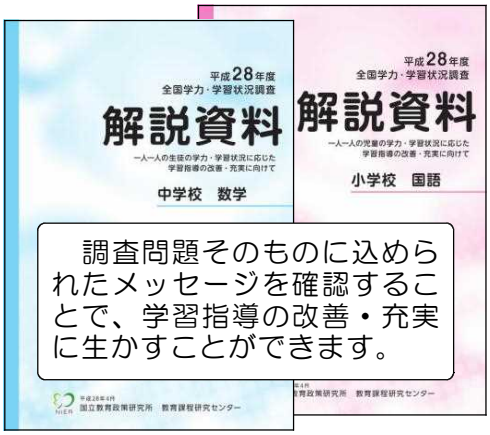
各調査の活用

各調査をPDCAサイクルで十分に活用し、結果分析から成果と課題を導き出し、授業改善・校内研修の見直し等、学力向上への手立てを図っていきましょう。

全国学力・学習状況調査（小６・中３）

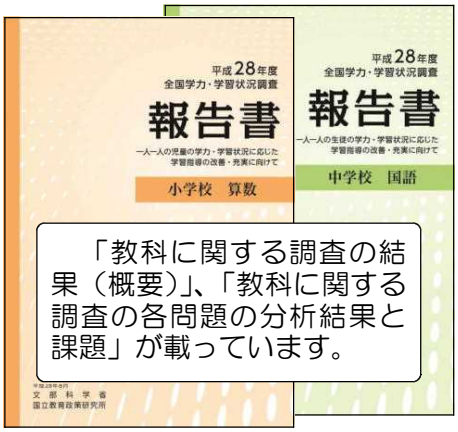
【調査問題】

【解説資料】



調査問題そのものに込められたメッセージを確認することで、学習指導の改善・充実に生かすことができます。

【報告書】



「教科に関する調査の結果（概要）」、「教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」が載っています。

【授業アイディア例】

全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業アイディアの一例が示されています。

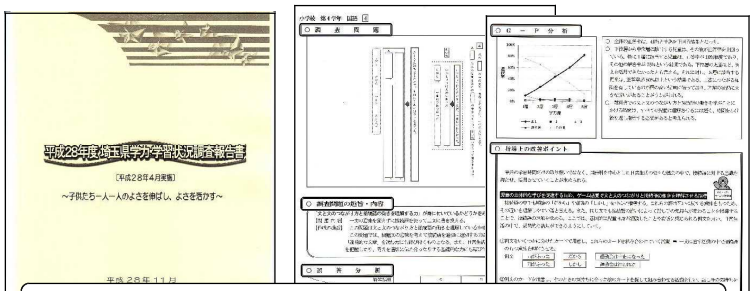
「一人一人の児童生徒に結果を返し、学習指導の改善に生かす」という調査の趣旨について再確認するとともに、全ての教員が各種学力調査の内容を知り、問題を解いてみることが大切です。

調査対象学年や教科の担当者だけでなく、全ての教員が問題を確認することにより、授業改善につながります。

各種資料は、国立教育政策研究所ホームページに載っています。

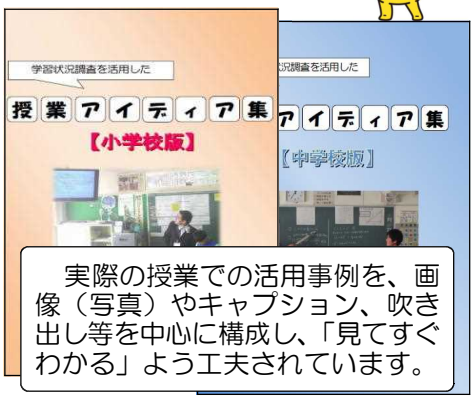
埼玉県学力・学習状況調査（小４～中３）

【報告書】



調査結果を詳細に分析し、子供たちのよさをさらに伸ばすことと、指導上の課題を解決するための授業の工夫改善のポイントが示されています。

【授業アイディア集】



実際の授業での活用事例を、画像（写真）やキャプション、吹き出し等を中心に構成し、「見てすぐわかる」よう工夫されています。

埼玉県学力・学習状況調査は、「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という今までの視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加え、平成27年4月からスタートしました。子どもたちの成長していく姿が見える、全国でも初めての調査です。